大府市議会議員（大東町）
たかばとくこ

2021 秋号
YOUR VOICE
大府市議会
無所属クラブ
議会レポート

大府市議会議員（共西町）
宮下しんご

市制100年の新たなレガシーに向けた第一歩を検証する。

50 年の節目とコロナ禍

５月末まで影響が続いた学校臨時休業と、初の緊急事態宣言の混乱の中に始まった令和２年度は、大府市にとって市制 50 周年の節目であったと同時に、市民の生命（いのち）と健康、日々の生活と生業（なりわい）を守るべき自治体行政としては、新型コロナという未知の感染症危機への対策がスタートした年でもありました。

また、これまでの半世紀の歩みを礎に、次の 100 年の節目に向けた新たな “まちづくり” の起点として、その最初の基盤となる「第６次総合計画」の初年度でもあったことから、無所属クラブでは、そのスタートにコロナ禍がどう影響したのかという視点を主軸として、令和２年度決算の審査に臨みました。

令和２年度 一般会計決算 重要ポイントをチェック！

注目ポイント Pick Up!!

◆行政業務におけるオンライン需要の増大への対応 CHECK!!
⇒コロナ禍の一時的な対症療法ではなく、さらなるＩＴ活用を通じた多様な働き方の実現に向け、継続的な取組となることが望ましい旨を指摘。

◆ごみ減量化と資源回収へのコロナ禍の影響 CHECK!!
⇒コロナ禍の影響を含む年度実績を適切に評価し、市民の行動変容を促す長期的アプローチに生かしていく重要性を提起。

◆駐輪場の放置自転車の処分 CHECK!!
⇒環境配慮に特段の定めがなかったことから、持続可能な社会づくりを進めるにあたっての本市の基本的な方針を全庁で共有し、各々の部署が自分事として可能な限りの取組を行うよう意見。

総論としては、計 18 回に及んだ補正予算編成で臨機応変にやりくりしながらも、専決処分を可能な限り避けて議決に付した点を大いに評価するとともに、財政調整基金を取り崩すことで先行的に予算を確保してコロナ対策に充て、国や県のコロナ財源を事後的に付け替えた運用も、手法として適切であった旨を認め、決算認定に賛成しました。
（※委員会の決算審査は中面に掲載）

その他の議案に対する無所属クラブの見解・意見

≪９月定例会≫

◆大府市国民健康保険財政調整基金条例の制定
・基金を処分できる具体的な条件が明記されていないことから、目的に照らした想定の範囲を質疑。

◆補正予算（第６号）
【中心市街地整備】
・立地適正化計画策定の後、駅周辺整備を具体化していく考えであること、名古屋都市圏で他駅を調査する予定である旨を、委員会質疑で確認。
【三菱グランドの用地購入】
・横根グラウンドやその周辺を含め、市内のスポーツ施設の環境全体を踏まえ、現状の市民ニーズと将来のスポーツ振興に資する第一歩となるよう、今後の活用についての検討を求める旨の意見を付す。

NEW TOPIC　無所属クラブは、こう考える―

新たなフェーズを先取りした感染症対策条例の一部改正。

新型コロナウイルスのワクチンを１回以上接種した人が、大府市でも８割を超えました。今後は、自らのリスク判断から接種を選択しない、あるいは医学上の事由により接種できないといった人が、時間の経過とともに社会の中でマイノリティーになっていくこととなります。大府市感染症対策条例の一部改正は、今がまさにその過渡期であることを踏まえ、感染症ワクチンについて、その接種の有無にかかわらず、あらゆる差別や中傷を禁止するものです。

私たち人間が、過去に幾度となく繰り返してきた “感染症と差別” という過ちに対して、本市が引き続き高い水準の人権意識を維持している証左として、私たち無所属クラブもその姿勢を大いに支持します。

市民が万が一、ワクチン未接種を理由に差別的取扱いや中傷を受けた際には、人権相談や労働相談の窓口を通じて、国や県等の関係機関との連携の中で被害の救済が可能な限り速やかに図られるよう、その対応のあり方を適切に検討することを望むとともに、副反応リスクと感染した場合のリスクを判断しかねている方々への正確な情報提供、ネットに氾濫する極めて悪質なデマや非科学的な情報に対する注意喚起についても、継続的な取組が必要であることは言うまでもありません。

コロナ禍が社会の姿を大きく変えつつある今、そのような時代の激流の中で心を傷つけられたり、個人の尊厳が損なわれたりすることが起きないよう、私たちも市民の人権擁護に全力を尽くしてまいります。

無所属クラブ 活動報告
Pick up

たかばとくこ
ファシリテーターとして

オンライン研修「市民と議員の条例づくり交流会議 2021 夏～進化する議会 デジタルとダイバーシティ」のファシリテーターとして、議論の進行役を務めました。

多様化が進む市民生活の課題を解決するための議論の場として、議会にも多様な視点が必要です。各地で活躍する、異色の 20 代議員とベテランの女性議員にお話しいただきました。

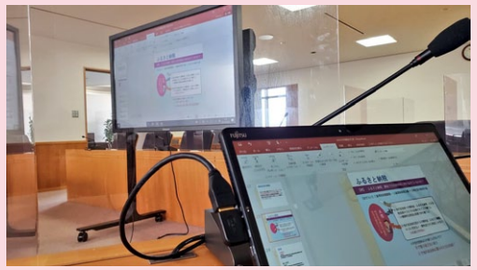
企画会議、研修のコンセプトづくり、話し手との事前打合せ、タイムテーブルの作成など、裏方としての企画調整から一貫して携わったことで、視聴参加の皆さまにより伝わるものとなり、好評の声をいただきました。

宮下しんご
同期議員の勉強会で講師に

定例会が終わるごとに、大府市議会１期目の同期議員が集まって、勉強会を開いています。

とはいっても、大学の先生などにお越しいただくような形ではなく、同期議員どうしで順番に講師を引き受け、自分の専門分野について講義するというもの。宮下が講師役をした回では、過去に中山間地で町議を１期務めた経験から、地域性や議会風土の違いなどをテーマに話をさせていただきました。

世代や会派の枠を超え、こうしてお互いの経験や知見を共有しながら切磋琢磨できる同期の絆には、とても感謝しています。



発行　大府市議会 無所属クラブ
鷹羽 登久子　（鷹羽登久子後援会：大府市大東町）
宮下 真悟　（大府をみんなで創る会：大府市共西町）

皆さまの声をお寄せください
obu_musyozoku_019@yahoo.co.jp
本発行物に関するお問い合わせ等　050-5339-4831

（討議資料）

この先のコロナ時代を見すえて考える―持続可能で発展的な市民活動のあり方とは

９月定例会 一般質問　　たかばとくこ

コロナ時代でも活発な市民活動を続けるために

対面交流や施設利用が制約されるようになってから実に１年半以上が過ぎ、「活動を縮小したり、休止したりする団体が多く見られ、中には解散するところもあった（市民協働部長）」という市民活動の現状。

市長からは、「区長会議やコミュニティ連絡会議などでのウェブ会議の開催」、「公民館で高齢者を対象としたスマートフォン教室の開講」、「減少した発表機会を確保するための新たな取組としてオンライン芸能祭を開催」、「対面での活動が困難となっている団体の資金調達の支援として、インターネットで活動資金を募るクラウドファンディングを活用しやすい環境の整備」など、多くの取組が例示され、「日常生活に様々な制約が続く中、３密や接触を避けて市民活動を継続する手段として、ＩＣＴの有効性が高まっている」として、「今後もＩＣＴを積極的に活用し、コロナ禍においても持続可能な市民活動の支援を行っていく」との意欲が示されました。また、平成28 年６月に、たかばとくこが一般質問で提案したクラウドファンディングの有効性が認められ、その取組が推進されていることも確認できました。

一方、市民活動の現場である公民館には、インターネット接続機器のＷｉ-Ｆｉが整備されていません。必要性を訴えて整備促進を求めましたが、残念ながら、「調査研究していく（総務部長）」との答弁にとどまりました。ＩＣＴの活用も有効ですが、対面交流が復活していく段階での活動継続や再始動の支援も重要となるため、場づくりやノウハウの提供なども意見として伝えました。

この一般質問の成果

提案した大府市オリジナルデザインのバーチャル背景画像は、市公式ウェブサイトでの配信が10月 18 日に始まりました。 achievement

屋外スポーツの熱中症リスクから市民の命と健康をどう守るか

９月定例会 一般質問　　宮下しんご

近年では酷暑が例年化―冷房による防止が不可能な屋外スポーツでの熱中症

８月に長雨が続いたこともあり、今年は比較的、暑さが控えめな夏となりましたが、それでも過去５年のデータを見る限り、６～９月の気温は真夏日、猛暑日ともに増加傾向とというのが実際のところです。台風災害の激甚化や線状降水帯の多発、ゲリラ豪雨の増加といった気象上の懸念だけでなく、年間を通じた気温の上昇もまた、地球温暖化の深刻化による“目に見える危機”として、私たちの命と健康を脅かしつつあるのです。

市民利用にも供される学校の体育館に空調整備が進められていることは、市民スポーツにおける安全確保の観点からも意義が大きい一方で、冷房使用が不可能な屋外スポーツでの熱中症の発生をどう予防するかが、今後の大きなカギになるものと考えています。感染症まん延状況による年間スケジュールへの影響等を踏まえつつ、屋外スポーツを通じた健康づくりに引き続き安心して取り組んでいただけるよう、そのあり方を市民の皆さまとどう共有していくのかが問われています。

健康未来部担当部長による答弁は、「すべての団体が熱中症リスクの低い時期に大会等を開催することは難しい状態」との説明のうえで、熱中症対策を適切に講じた施設利用をお願いするほかない苦しい実情に理解を求める内容にとどまりましたが、熱中症アラートの「厳重警戒」以上の日が、「今後さらに増加する可能性が考えられる」との共通理解は、確認することができました。

９月定例会で購入予算を議決した三菱グランド等、屋外スポーツ施設全般の総合的な活用の議論が、今後のより柔軟な日程確保にもつながるよう、引き続き提言してまいります。

建設産業委員会

令和２年度 決算審査 Pick up

◆おおぶ元気商品券事業

全市民に１人あたり１万円の商品券を発行。「コロナ禍の影響を緩和するため、消費を喚起し、市民生活を支援し、市制 50 周年を盛り上げる」ことを目的としていました。

事業者や、収入が減った世帯から歓迎の声をお寄せいただいた一方、収入にあまり影響がなかった方からは、「全員対象でなくとも、もっと大切なことに税金を使ってほしかった」という声も頂戴しました。

経済効果はあったものの、市制 50 周年記念の取組であることや、その意義を市民に十分伝えることができたのか、貴重な機会を生かせたのか、改めて指摘しました。

◆消毒用のアルコールや飛沫防止のビニールシートへの引火、火傷などに対する注意喚起は？

コロナ禍以前にはなかった消毒用アルコールや、飛沫防止ビニールが火傷や火災の原因となることがないよう、啓発・指導が積極的に行われたかを確認しました。

消防本部からは、「一般向けに、公式ウェブサイト上で注意点を掲載したほか、小売店や飲食店には店内確認をしながら注意喚起文書とリーフレットを手渡し、飛沫防止シートを使う際は燃えにくい素材のものにするよう、啓発・指導を行った」との答弁でした。コロナの感染対策は今後も続くことから、引き続き適正な啓発と指導が必要です。

◆のべ 14 の事務事業に対して合計29 項目の質問通告を提出

中止や縮小を余儀なくされた事業について、その目的や必要性を改めて精査したうえで手法の検討を行う必要があり、今後の展開を注視してまいります。

総務委員会

令和２年度 決算審査 Pick up

◆在宅勤務の実証実験

コロナ禍を受けて行われたテレワークによる在宅勤務の実証実験について、実際に得られた成果や今後の展開に向けた課題などを質問しました。

職務専念義務との両立はもちろん前提ではあるものの、子育てなどで急な予定が入るといった状況が発生する場合もあり、その際には、有給休暇を時間単位で取得できるルールで対応したことが確認できました。

職員の多様な働き方に資する取組として、運用上の課題を適切に抽出したうえで今後にしっかり生かすことが、働き方改革を一層推進していくうえでも極めて重要です。

◆コロナ対応で業務負荷が増大…？職員のストレスへの目配りは？

職員の医師面接者数が 10 人と、前年度より大きく増加していたことから、その要因を尋ねるとともに、コロナ禍による通常業務の負荷増大や新たな業務の発生、イレギュラーな応援体制等、職場環境の変化から生じ得る高ストレス状態に対して、どのような気配り、目配りで対応を行ったかについても確認しました。

新型コロナ関連業務で時間外勤務が多くなった職員には、ストレスチェックの結果にかかわらず産業医の面接指導を行った旨の答弁がありました。

◆のべ 10 の事務事業に対して合計27 項目の質問通告を提出

今回の決算審査で特に注力した点は、コロナ禍が市の組織体制や人員にどれほどの負荷となったかの検証です。今後も市民生活を支える役割を適切に維持していくには、コロナ禍から組織の持続可能性をどう守るのかという視点も欠かせません。

市制100年の新たなレガシーに向けた第一歩を検証する。